

の新しい技術や異国の言葉などの知識を吸収したことでしよう。

この頃、豪族の子弟は役人として認められるために、都で「舎人」としてつえました。博学の古麻呂はその中で頭角を現し、官僚として昇進。地元

の下毛野に下野薬師寺を建立

がっていく時代でした。

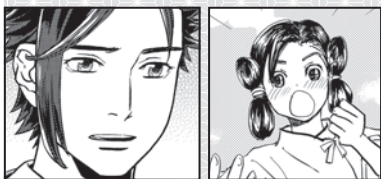
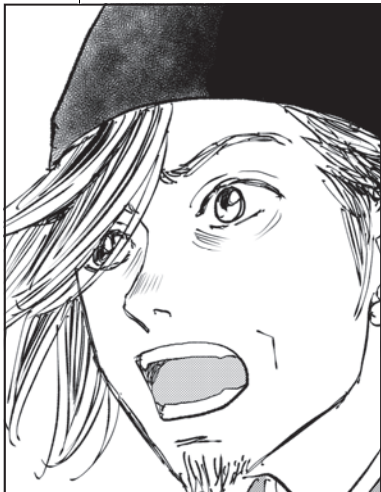
し、大宝律令の制定をはじめ、平城京遷都など、大臣として多くの仕事を手がけました。709年、古麻呂は藤原京の屋敷で家族に囲まれ生涯を閉じました。彼が生涯を駆け活躍した時代は、ちょうど日本という新しい国が出来上が

◆ 主な登場人物たち

下毛野古麻呂

しもつけのまろ

主人公。下毛野国を治めていた一族出身



佐久良 さくら

古麻呂の妻で、常陸国造一族の出身



奈宣 なぎ・棗 なつめ
古麻呂と佐久良の娘



下毛野久志麻呂

しもつけのくし

古麻呂の父。
下毛野国を治める長



伊須美阿比登

いすみのあひの

古麻呂のお供で
蝦夷の血を引く



綺文人 かみわたのあやひと

古麻呂のお供で
渡来系新羅人の子



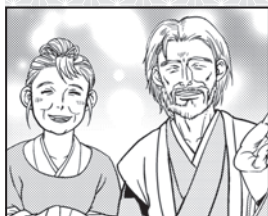
徳用水 とくみずみ

朝鮮半島出身の
老人で知識人



大伴氏 おおともうじの長老と妻

飛鳥時代以前から中央で活躍した有力軍事家族



大伴連御行 おおとものおんご

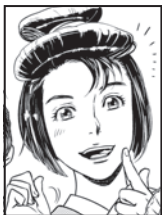
おんご



大伴氏出身で、古麻呂の能力を高く評価

大伴音那 おおとものおね

おね



御行の妻。紀氏出身